

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と

共に生きる流域づくり検討協議会（仮称）

生息環境づくり部会（準備会）

議 事 次 第

日 時：平成27年 1月30日（金）

14：00～16：00

場 所：出雲河川事務所 1階 大会議室

1. 開 会（出雲河川事務所・青戸副所長）

2. あいさつ（出雲河川事務所・舛田所長）

3. 議 事

（1）取組の背景について（【資料1】：事務局より説明）

（2）指標種の生息環境としての河川・農地等

における対策について（【資料2】：事務局より説明）

（3）今後のスケジュールについて（【資料3】：事務局より説明）

4. 閉 会（出雲河川事務所・青戸副所長）

<その他の配付資料>

- 出席者名簿・配席表
- 参考資料
- 斐伊川水系生態系ネットワークに関するアンケート

【準備会における主な意見等】

挨拶

出雲河川事務所 舛田所長 歴史もあり、多様な自然環境に恵まれた流域を、今後も将来に向けて良い状態で引き継いでいこう、もっと良くしていこうといった中で、この地域に携わる皆様と連携をし、どういうあり方が良いかを話し合っていきたいと思う。この取組は、大型水鳥類を指標に考えていくが、鳥を増やそうといった取組ではなく、既に多くの水鳥類が飛来する宍道湖等の水辺環境が失われることがないよう、流域でどういった取組ができるかという知恵を出しあっていきたいと思っている。

議事

・指標種の生息環境としての河川・農地等における対策について

出席者 指標種ではないがサギのコロニーやすみかを追っ払うということをやりながら、もう一方で保護していこうという取組の整理についてはどうか。

出席者 島根県では水稻の農業被害が一番多いので、どの程度の被害があるか気になった。

事務局 今飛来している鳥をどう保全していくかと併せて、生態系全体、地域全体としてどういうポイントでバランスをとっていけば良いのかを探っていきたい。豊岡では「コウノトリ“も”すめる環境」を目指しているように、河川や農地等でのバランスをみながら、どういうことができるのかを考えていこうと思う。

出席者 被害などは必ず起こってくることはあるが、全国的に見てこの地域の大型水鳥類は貴重で、売り物にする、上手に利用するという発想を持って、色々な困難を克服していったほうが、地域の産業活性化に貢献すると思っている。これを機会に、課題の対策について知恵を出しあっていけたらと思う。

出席者 豊岡市でも、最初にコウノトリの野生復帰をしようとした時は、害鳥として反対される方が多かったとのこと。利害関係が逆の方達が最初から集まり、ちょっとずつ解決していくと将来、良い斐川平野になると思った。

出席者 島根県では無農薬・減農薬栽培の認証制度を行っているが、すぐに単価に反映させることが難しく、モチベーションの維持も課題として出てきている。その辺もご検討いただければと感じた。

出席者 特に、宍道湖西岸については、湿地で地下水位が高く米以外はあまりつくれないため、基盤整備の要望も入ってきている。基盤整備と環境、大型水鳥類は相反するのではという気がしている。

事務局 基盤整備の整備にあたっては、大型水鳥類の飛来等に配慮・対応していければ良いかと思う。

出席者 トキは国の象徴的な希少種で、出雲にも元々いたという話もあって、野生復帰はシンボリックな取組として、モチベーションを継続させる上では非常に効果的かと思う。

出席者 内水面の会合では、農村集落の下水道から出る塩素が及ぼす微生物やプランクトンへの影響が挙げられている。鳥より下の、食物連鎖の底辺のことも考えなくては、と思う。

・今後のスケジュールについて

出席者 実験的・モデル的な地区をつくられる予定があるのか。

事務局 新規事業を立ち上げてやるというよりは、普段の維持管理の工事でやり方を工夫するところから始めるイメージでいる。整備は早ければ28年度にできるところからやっていければと考えている。

出席者 生息環境調査について、鳥類の飛来や生息を把握されると思うが、餌となるような魚類や両生類といったことはどこまで調べられる予定か。

事務局 今年度は採食地となる水域がどこにあるかを調べている。来年度には定量的な採食生物の調査を予定している。今の枠の中でできる事業についてはパイロット事業のような形で進め、効果も見ながら検討していければ良いものになるかと考えている。